



「社会と学問」について

概要 大学での学びを将来の仕事にどのようにつなげるかについて思慮し、大学での学びのきっかけをつくることを目的とする授業です。

社会の第一線で活躍されている諸先輩方を講師として招き、自らの体験談等を交え講演をしていただき、学問と社会との繋がりを学生自らが発見し、時には、他の学生の考え方等を参考にしながら、今後の大学での学びにつなぎます。

■背景

自らを理系人間・文系人間ときめつけたり、大学教育を資格試験の準備と見なしている初年次生たちの狭まった関心の幅を広げるきっかけとするため、学外講師を招いて自らの体験談を交えて講演いただく授業を平成9年度から開設しています。社会の第一線で活躍されている方々に講師を依頼するのは、大学教員が学生に社会を語る時、その社会が実体験によって裏づけられていない場合も多々あるからです。講師がその体験に応じて語る「社会」の実像のどこかを、学生個々が自らの学問ないし研究と結びつけて捉えてほしい、つまり大学での学びにリアリティをもたせてほしいという期待のもとで、この授業に「社会と学問」というタイトルをつけ、九州大学全学教育科目・教養教育科目・総合科目（2単位）として開講しています。

■内容

社会の第一線で活躍されている先達の方々が講師として、紆余曲折を経た体験に根ざした話をしてくださいます。全員の毎回の履修レポートを掲載した「履修ノート」（CD版）を作成します。一人ひとりの想像や思考が及ぶ範囲には限界がありますが、全員で作成する「履修ノート」には、例年、社会的課題の発見や学問の捉え方において、多様な展開が見られます。

■効果

「社会と学問」の履修による最も顕著な効果は、高度化し複雑になった社会に参画するにあたり、総合的であるという意味で高度な視点と知識が必要であることへの気づきをもたらしているところにあります。

また、講師の体験談に想像を超えた社会を見出し、他学生の授業レポートを読むことで、一貫した硬い価値観を問い直し、多様性を許容するための土台づくりの端緒となっています。

■今後の展開

履修ノート等による教育成果を検証しながら、「社会と学問」の内容をさらに充実していきたいと考えています。

【用語解説】

全学教育科目＝本学の総合大学としての利点を最大限に生かし、全学の教員が協力して行う、教養科目のこと

総合科目＝複数の講師が、同一テーマのもとで、オムニバス形式で各回の講義を担当する授業のこと

【お問い合わせ】

高等教育開発推進センター教授 淵田吉男

電話：092-726-4544

FAX：092-726-4530

Mail：fuchita@rche.kyushu-u.ac.jp

平成19年度「社会と学問」授業日程表

前期 水曜日 5時限目 16:40-18:10

六本松地区 新1号館 N140 番教室

- 第1回 4月11日(水): オリエンテーション
- 第2回 4月18日(水): 立命館アジア太平洋大学学長 モンテ・カセム
- 第3回 4月25日(水): NPOふおるつあ代表 重橋 史朗
- 第4回 5月 2日(水): 毎日新聞環境科学部 元村 有希子
- 第5回 5月 9日(水): 東京海上日動メディカルサービス(株)
メディカルリスクマネジメント室主任研究員 山内 桂子
- 第6回 5月16日(水): 九州大学総長 梶山 千里
- 第7回 5月23日(水): 九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長 石原 進
- 第8回 5月30日(水): 福岡県立修猷館高等学校教諭 高橋 利夫
- 第9回 6月 6日(水): 長崎大学学長 齋藤 寛
- 第10回 6月13日(水): 昭和女子大学学長 坂東 真理子
- 第11回 6月20日(水): (株)紀之国屋代表取締役社長 中村 高明
- 第12回 6月27日(水): (株)アヴァンティ代表取締役社長 村山 由香里
- 第13回 7月 4日(水): 前 駐福岡大韓民国総領事館総領事 金 榮昭